

○「一人一人の子供を主語にする学校教育」を前提とした議論を

- ・「一人一人の子供を主語にする学校教育」の重要性は、先般の中教審答申に示される通りである。例えば授業であれば、一斉指導といった単線型では実現が困難で、子供一人一人の複線型の授業になるだろう。その複線型の授業の実現に、個別最適や協働的な学びといった考え方があるとすると分かり易いのではないか。
- ・結局のところ、今後、どのような資質・能力の育成を目指すとしても、子供一人一人を主語として、しっかりと力をつけていくことに変わりはない。

○子供及び教師一人一台端末環境を前提とした議論を

- ・増加の一途をたどる特別支援、不登校、外国語話者などを含む様々な特別な支援を要する子供たちを、それぞれの制度や施設等だけで受けとめ続けるのは困難であろう。一人一人の子供を主語と考え、教育課程、学級や集団編成、学習形態などの柔軟化などによって、普通教室でも従来以上に受けとめるなど、選択の幅を広げる検討が必要ではないか。一斉指導が主体であるから普通教室で学べない可能性もあり得る。複線化の結果、学習情報が爆発的に増え、より複雑になる経営には、高度な校務支援システムや学習記録システム等、子供及び教師一人一台端末環境が活かすことができないか。これらを前提に、教育課程の検討ができないか。
- ・様々な興味・関心、特長を持つ子供一人一人が、一層伸張したり、困難を乗り越えたりするために、一人一台端末を積極的に活用できるのではないか。公教育としての共通性は踏まえた上で、選択的な学習、社会と接続した本物の情報からの学び、AI、翻訳やアクセシビリティ機能、デジタル教科書・学習材など、子供一人一人の力を最大限発揮するために一人一台端末を活用する。これらを前提とした柔軟な教育課程、指導方法や指導体制などの運用を可能とする仕組みの検討ができないか。

○自らが学び続けるための「学習の基盤として資質・能力」の指導の充実

- ・子供一人一人がそれぞれに伸張するためには、自らが学び続けることが重要である。この際に、個別的な知識・技能の習得は、AIドリルや学習動画による一人一人の学習に置き換わっていく可能性がある。そして、より重要なのはより高次の思考力・判断力・表現力等といった資質・能力の育成である。一般に子供一人一人が問題解決的な活動を繰り返すことで育まれるだろう。皆で同一の課題を解決するのではなく、一人一人が課題を持ち解決することを重視していく。この際、各教科等で共通に発揮が求められる問題発見・解決能力といった「学習の基盤として資質・能力」が一層重要となる。系統的・体系的な育成が求められる。また、既にこれらが一部実現している学校では、結果的に各教科の学習時間の短縮も見られている。

○一人一台端末を十分に活かすための「情報活用能力」の指導の充実

- ・さらに子供一人一人が問題解決をしたりするには、情報を調べ、整理して、まとめて、伝えるといった情報活用能力が基盤となる。従来のように教師が一つ一つ作業指示をしたり、皆で同一の課題を解決したりする授業では、さほど力がなくても問題にはならなかったが、子供一人一人が自ら学び、自ら問題解決する際には、基盤となる資質・能力として一層重要となる。一人一台端末を活用するためのスキルのみならず、さらに高次に使いこなす力として求められている。
- ・社会人が情報端末を使わない日はないだろう。しかし、義務教育段階で十分な学習が行われているかは課題である。先般の情報活用能力調査の結果によれば、小学校第5学年の約3割が1分間に10文字以下のキーボード入力スキルしかなかった。現状の学習指導要領では十分な指導が行われないことを表している。キーボードのように分かり易いスキル指導の成果でも、このような状況であれば、本質的な情報活用能力の育成のためには、さらに一層の教育課程上の工夫が求められるのではないか。